

◆ 袋田の滝ヒアリング調査 ◆

1月14日、15日の2日間、卒業研究の一環で、大子町にある袋田の滝のヒアリング調査に行きました。

日本三大名瀑のひとつに数えられる袋田の滝は、大岸壁を四段に流れ落ち、四季折々の表情を見せることから、別名「四度の滝」とも呼ばれています。中でも、真冬に凍結した氷瀑は神秘的です。現在大きな問題となっている地球温暖化現象により、凍結現象が見られなくなってしまうことは冬の観光資源としての魅力をかなり失ってしまうと思います。

そこで今回の調査の主な目的は、滝の凍結現象という特殊な観光資源に対し、観光客の満足度がどのような要因で成り立っているのか、多種多様な観光客の意識を知るためでした。調査した2日間はともに好天に恵まれ、朝方の冷えこみも厳しく、凍結状況が8割程度とよく、観光客がたくさん訪れました。調査員を施設内に均等に配置し、ランダムに回答者を選抜しました。高年齢の観光客がほとんどであると思いきや、想像以上に20代の観光客も多く見受けられました。やはり、観光客にとって凍結現象の重要度は高く、凍結現象が起らないのであれば、冬には来ないという人が半数以上でした。今後は、この調査結果をもとに、凍結現象の観光客数への影響の考察に展開する予定です。

(都市システム工学科4年 鶴野澤達也)



調査メンバーです！



凍結した袋田の滝

◆ 低炭素社会を実現するための都市・交通研究 ◆

二酸化炭素排出量の約2割が運輸部門から排出されています。その内9割が自動車交通から排出され、5割は自家用乗用車から排出されています。様々な活動と二酸化炭素排出量を比べた結果では、家庭部門からの排出量を減らすためには渋滞の中のマイカー利用を控える事が効果的です。私たち計画・交通研究室では都市・交通分野から低炭素社会を実現するために、移動手段を自動車から環境にやさしい公共交通や自転車へ転換する方策を研究し、学生が現場に入って身近な自治体で実践してきました。

公共交通への利用の転換を進めるためには、その交通システム自体が地域のニーズに合致していることが必要です。日立市内の学区コミュニケーションや阿見町で、自治体が行う公共交通整備・活性化のプロジェクトのワークショップに参加し、住民と一緒に検討を行ってきました。日立市はこういった住民中心の検討の取り組みに対して H22 年に国土交通大臣表彰を受けました。また広く車利用者の意識を啓発するための取り組みの企画や、社会実験の評価分析も行っています。



住民ワークショップでの検討

阿見町の公共交通社会実験

自転車は環境にやさしく健康に良い乗り物として、近年脚光を浴びています。しかし、自動車に比べると自転車の走行環境はひどいものです。そこで、科研費や国交省からの委託研究費を使って自転車走行環境の基礎研究を進め、道路交通法の改訂と自転車走行環境整備マニュアルの作成に貢献してきました。同時に全国の研究者・実務者を組織し、国交省や警察とも連携して多くの自治体でモデル事業と計画策定を進めています。県庁に近い水戸50BP自転車道は斬新な設計思想に基づいています。ぜひ一度走ってみてください。



水戸 50BP の自転車道



つくば市の自転車ネットワーク図
(自転車のまちつくば行動計画、2011年)

(金利昭、山田稔)

◆ 島田コーディネーターのちょこっとコラム◆

いばらき自然エネルギーネットワークが発足します！

前回、いばらき自然エネルギーMAPを紹介しました。前回、詳しく紹介できませんでしたが、ICASを中心に現在いばらき自然エネルギーネットワークの発足を準備しています。

このネットワークは、茨城県で、自然エネルギーに取り組む様々な人達を、互いに知り、情報交換や相互の連携を育てるといいう取り組みです。簡単に言えば、自然エネルギーの仲間づくりのネットワークです！！でも、「なーんだ、仲間づくりか」といってバカにははいけません。実際に、4回ほど準備会を開いてきましたが、みな様に言うのは、これまで、茨城県には（自然エネルギーに関して）このような場はなかった。とても良い。ということ。

世の中が、どんどん合理化され、利益を生み出す仕組みにしかあまり興味を示さなくなってきたように感じる昨今、仲間をつくりあい、お互いに教わったり、教えたり、気軽に知らないことを学べる場が、（自然エネルギーという限られた取り組みですが）、茨城県にあったら良いのではないかと私達は考えています。物事を動かす土台には、そんなゆっくりとした人のつながりや取り組みがとても必要な時代なのではないかとも思っています。もちろん、仲間づくりとはいっても、連携すれば大きな力となってくるので、外部資金の調達やシンポジウムや見学会、調査研究開発など実践的な活動や新しいテーマにも取り組んで行きたいとも思っています。

どこまでできるかわかりませんが、思わなければ始まりませんし、やってみなければわかりません。とりあえず、ゆっくりとした気持ちを忘れずに先に進みたいと思います。3月16日には茨城県立図書館で「地域から考えると地域の自然エネルギー」と題してシンポジウムを開催します。

（詳しくはICASHPをご覧ください）

ネットワーク、シンポ、共に皆さんの参加をお待ちしています！！

ICAS 地域コーディネーター島田敏

◆ 研究室紹介◆ 景観・空間設計研究室 景観グループ

今回は、工学部 都市システム工学科

景観・空間設計研究室の景観グループを紹介します。

当研究グループは、小柳武和教授、博士後期課程学生 3 名、博士前期課程 2 名、そして学部 4 年生 4 名の計 10 名です。新たな魅力ある景観を創造し、次世代へ継承していくことを目標とし、日々研究に励んでいます。

研究テーマは、「景観とまちづくり」、「都市公園整備・防犯」、「気候変動と観光資源の関連」、「都市における環境測定」、「中国庭園における空間構成」など多岐にわたり、様々な視点から研究を行っています。昨年からは、常陸大宮市のまちづくりに関する研究に新たに取り組んでおり、まちづくりの事例収集、歴史的建築物・観光資源の調査より、常陸大宮市のまちづくりの計画、観光ルート の提案等を考えています。

研究グループでは、基本的に週に一度ゼミがあり、その週に活動した内容を報告します。「景観」を研究対象としていることから、現地調査を行うことも多く、昨年は常陸大宮市に研究室全員でお邪魔し、市職員の方に市内の景観・観光資源を案内していただきました。また、観光地の現状把握のため、現地でアンケート調査を行うなど、研究室の外での活動も多くあります。

毎年夏に行われる研究中間報告会の後には、小柳先生のお庭をお借りし研究室全体でバーベキューを行うなど、研究以外でも楽しく活動を行っています。

（博士前期課程 1 年 御園能弘）



2011 年度景観研究室ゼミにて（小柳先生と研究室メンバー、仮配属生）

2011 年度 ICAS カレンダー

4月	H23 年度サステナプログラム履修登録開始 「茨城大学環境マネジメント計画」開始 4/19 茨城大学震災調査団中間報告会	10月	10/12 RECCA 気候変動対応合同シンポジウム 10/27, 28 アジア太平洋 Climate Change Adaptation Forum (バンコク)
5月	5/25 国際、国内実践教育演習ガイダンス	11月	11/15-17 UN-CECAR 国際教育シンポジウム(茨城)
6月	6/1 東日本大震災調査報告会 6/4, 11, 18 サステナビリティ学入門 6/6 第1回運営委員会 6/10 SSC 理事会(北大) 6/11 SSC シンポ(北大)	12月	12/1 茨城県3者連携講演会(水戸) 12/3・4 ISCIU7(茨城大学学生国際会議) 12/19 ベトナム・デルタシンポジウム(水戸キャンパス)
7月	7/9,16,17 サステナ最前線講義 7/29 自然エネルギーWS 国際実践教育演習ガイダンス	1月	1/17 第2回運営委員会
8月	8/3 国内実践教育演習ガイダンス 8/3-6 ハノイ科学大より2先生来日(サステナ・フォーラム)	2月	ICAS 年報 2011 発行
9月	9/3-11 国際実践教育演習(ブーケット) 9/15, 16 土木学会地球環境シンポジウム(水戸キャンパス) 9/28-30 国内実践教育演習(大洗) 9/29 第2回運営委員会	3月	3/2 学生サステナフォーラム 3/15 ICAS 研究報告会 3/16 自然エネルギーネットワークシンポジウム

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp